

文 化 財 学 習 会

ふ る さ と 探 訪

テーマ 法然寺から船岡山古墳へ

講 師 船 築 紀 子

(高松市文化財専門員)

平成 2 3 年 1 2 月 1 8 日 (日)

共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会
高 松 市 教 育 委 員 会

目次

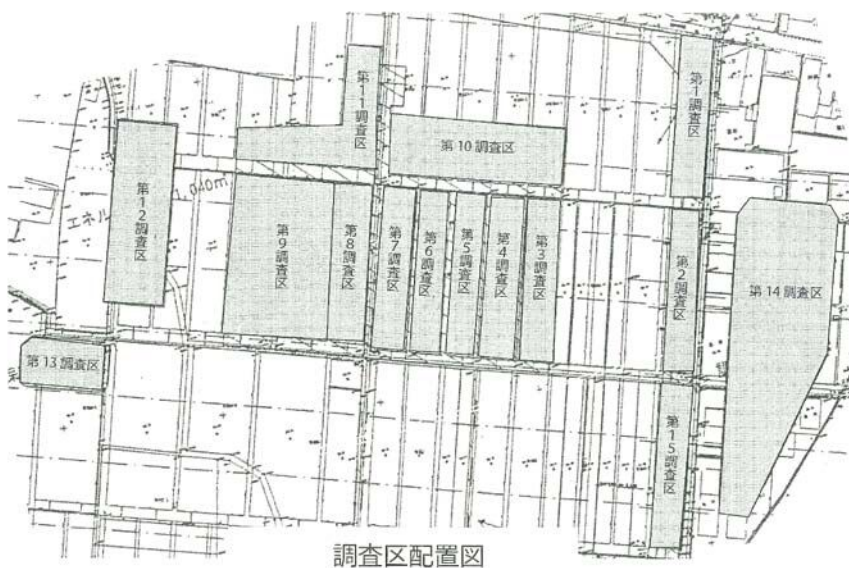
1	萩前・一本木遺跡	•	1
2	平池	•	3
3	船岡山	•	5
4	船岡山古墳	•	5

1 萩前・一本木遺跡

萩前・一本木遺跡は、新病院整備事業に伴い、平成二十年度に試掘調査を実施した結果、遺跡が所在することが確認されました。試掘調査を実施するまでは、この地域に遺跡が存在することが知られていなかったため、新たに小字名をとって、萩前・一本木遺跡として遺跡台帳に登録されました。

発掘調査は、病院や付属の建物、調整池、道路部分を対象に、平成二十三年四月から実施しており、これまでに第一～第十、第十五調査区について調査を実施した結果、次第に萩前・一本木遺跡の様相が明らかになってきています。

遺跡からは、竪穴建物、掘立柱建物、



土坑、溝など、多くの遺構を確認しています。特に竪穴建物は竈かまどのある建物を多く確認しています。

すえき つきみ つきふた つき たかつき つば かめ

須恵器すえきの杯身つぎみ・杯蓋つぎふた・杯つき・高杯たかつき・壺つば・甕かめ・

こね鉢ばん・盤は・土師器はじきの壺き・甕き・杯き・高杯き、

石器、玉類、鉄器などの遺物が出土しています。

遺跡は、古墳時代中期（一六〇〇年前）

（奈良時代（一三〇〇年前））にかけてのも

ので、古墳時代中期ごろから集落の形成が始まり、最も隆盛なのが古墳時代後期～飛

鳥時代（約一五〇〇～一四〇〇年前）で、

竪穴建物や掘立柱建物などの多くの遺構が

この時期の所産です。これまでの調査で、

竪穴建物は四十五棟、掘立柱建物は十六棟

が確認されていますが、今後調査が進展す

るに従ってさらに増える可能性があります、大



第3～第6調査区の全景

規模な集落であったと考えられます。

その後、一三五〇年前（屋嶋城が築かれた頃）に大規模な土木工事を行い、基幹水路と考えられる溝が掘削されています。また、古墳時代後期ごろの掘立柱建物の柱穴とは明らかに規模の違う、大きな柱穴で構成される掘立柱建物も確認されています。遺跡が古代の国道である旧南海道跡に近接していることや、いわゆる『都城系の土器』と呼ばれる、都や、地方では都との関係がある遺跡から出土する土器が見られることから、この地域に公的な施設があったとも想定されます。

今回の調査は、仏生山地域で初めての大規模なものです。これからさらに調査が進むに従って、この地域の歴史を知る上で重要な知見が得られることでしょう。

2 平池

へいけ

讃岐国大日記等に、平池は、治承二年（一一七八）、平清盛の命で、あわのみんぶたくちのしげ阿波民部田口成良が築造したことが記されています。一説には、そのことから平氏の一字をとって平



かまど
竈



竪穴建物

池としたとされています。

この平池には、「岩皿小皿」で有名な悲しい逸話が残されています。平池の堤は何年もかかって築かれていましたが、何度堤を築いても押し流され、容易に堤が完成しませんでした。民部成良が神仏に祈ると、「ちきり（機織の道具の一つ）を持った女が通りかかるので、その女を人柱にたてよ。」とお告げがありました。翌朝、ちきりを小脇に抱えた少女が通りかかったので、捕らえて、人柱として無理やり堤に埋め、池はようやく完成しました。

ところが、池の東の隅の蛇渕といわれる辺りから、水が滴り落ちて止まりません。絶え間なく滴り落ちる水音が、「いわざらまし（ちきりを持つているなんて言わなければよかった）」と、少女がむせび泣いているように聞こえるというのです。里の人たちは、この少女の霊を池の中洲に祀り、さらに、雌山の上に移して「ちきり大明神」として祭祀するようになりました。

現在、平池の北側の堤防に、人柱となった少女の霊を祀る像が立っています。



乙女の像

3 船岡山

船岡山古墳のある船岡山は高松平野南部に位置し、島状を呈した独立丘陵となっています。南にある船岡池は、寛文十三年（一六七三）に香東川の旧河道や伏流水を利用して築造されたもので、この堤の下には舟岡出水（上成出水）があります。船岡山の北麓には天平年間（七二九～七四九）創建の船山神社があったとされ、天正十年（一五八二）の兵火により、現在の仏生山地区に移されたといわれています。なお現在の船山神社は、奈良時代の軒瓦が出土することから、古代寺院跡（百相^{もまい}麿寺）に比定されています。このほか、舟岡地区は舟岡焼の地としても知られています。

4 船岡山古墳

船岡山古墳は、平成二十年度からの延べ七回の発掘調査によって、一基の前方後円墳（一号墳）と一基の墳形不明の古墳（二号墳）で構成されていることが分かりました。一号墳は、全長四十四メートルで、墳丘を造るにあたり、石材と土砂を用いて造営しています。前方部では、西側（香東川側）を精巧に造っているのに対し、東側（塩

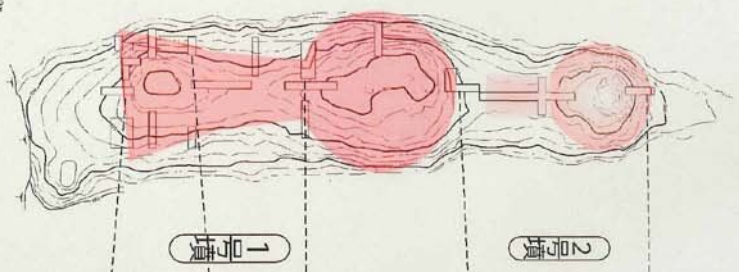
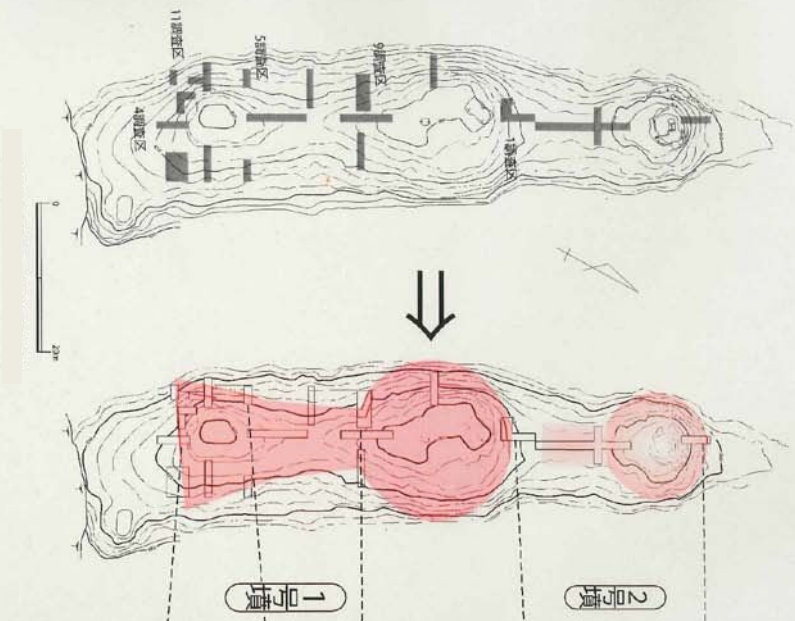


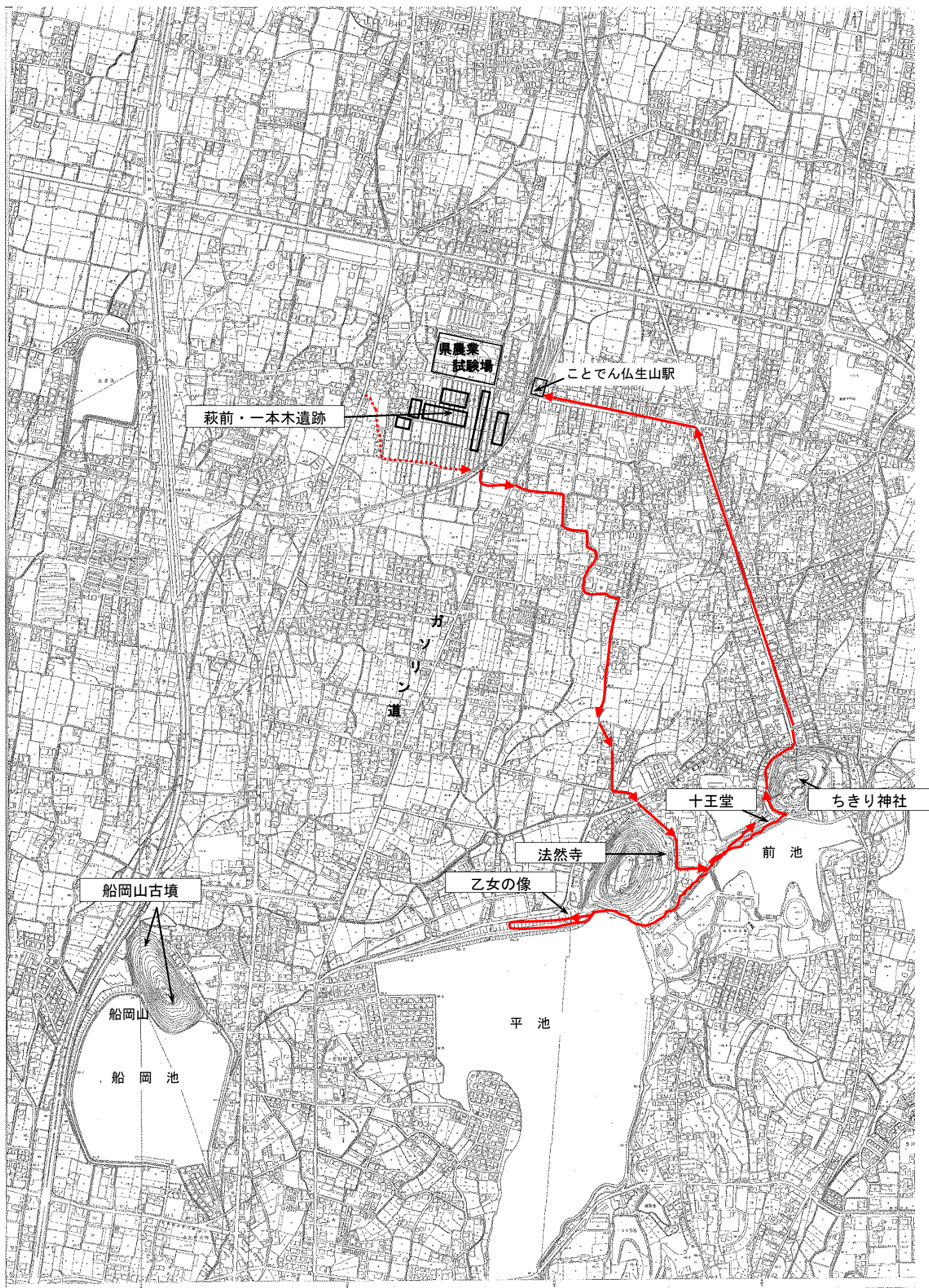
船岡山（南側面）

江街道側）では、墳丘を丁寧に造っている様子がありません。古墳築造時に、古墳の眺望を意識した古墳造りが行われた可能性が考えられます。

円筒形の埴輪が出土しており、全体の形や文様、細部の形状から、古墳時代前期でも古い段階のものと考えられます。

船岡山古墳調査区配置図と墳形復元図





12月18日（日） 仏生山からの復路

ことடன்琴平線

仏生山駅

（**上り** 高松築港行き） 12：12 発 （→12：28 高松築港駅）
12：27 発 （→12：43 高松築港駅）
12：42 発 （→12：58 高松築港駅）
（**下り** 琴平行き） 12：18 発 （→12：42 滝宮駅）
12：32 発 （→12：36 一宮駅止まり）
12：48 発 （→13：12 滝宮駅）

次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 善通寺の歴史を訪ねる

と き 平成24年1月22日（日）

9：30～12：00

集合場所 善通寺市役所

（JR善通寺駅から西へ約200メートル）

講師 大河内 義雅（香川県文化財保護協会副会長）

☆広報「たかまつ」1月15日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆天候等により中止の場合のみ文化財課（TEL 839-2660
「午前7時～開始時間まで」）でお知らせします。
（電話が通じない場合は、「実施」です。）



★集合場所への交通案内★

JR土讃線

（JR高松駅） （JR善通寺駅）

7：54 → 8：50

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一直線で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。